

ルーフ広宣 衝撃!! インタビュー

安田 安田 安田 (やすだ・かくりよう)
1954年、岐阜県生まれ。大学卒業後、外資系調査会社、地方新聞社報道記者(社会部に警察担当)を経てラーメン屋、リクルートコピーライター。その後、ボクシング、格闘技・プロレスのライターに転身。テレビ朝日「ワールドプロレスリング」解説。著書「船木誠勝の肉体改造法」「火の呼吸」など多数。



「世の中、衝撃的なものがないとダメ! やっぱ刺激ですよ!」

ルーフ..子供時代は、どんなお子さんでしたか?

安 田..剣道少年でね。中2の頃、部活のほかに夏休みになると高校や警察署へ出稽古に行っていたくらいなんです。だから県大会でも成績良かったですね。結局、僕は小さい頃から好きなもの、面白いものをガンガンやろう!というタイプだったんです。それから、僕の育った美濃地方(西濃)は歴史のあるところで、小6の頃は自転車で郷里の歴史旧跡を周って調べていました。歴史大好き少年でもありましたね。

ルーフ..岐阜出身のマジシャンをご存知ですか?

安 田..マリックさんですよ。マリックさんが出た時は衝撃的でしたね。

ルーフ..かつてプロレスも世間を巻き込み、社会的認知を得た

ように、マリックさんも「対世間」で超魔術という一時代を築き上げたと思います。

安 田..衝撃的なものが無いと駄目なんです。やっぱ刺激ですね! 話が変わりますが、世の中、カラクリだと思いませんか。「ねじれ国会」なんてカラクリ。

「これは出来レースだ!」と思いました。それが分かっていたら、面白く見られるんですよ。世の中には見せかけの世界と現実の世界と両極端あるんですよ。人の良さそうな事を言っている、腹黒い人が居ますから、それと同じなんです。

ルーフ..例えば、全てを百とすると、真実は一つな訳で、残りの九十九は「トリック」位に私は思っています。

ルーフ..ところで、安田さんはマジックをどう思われますか?

安 田..僕ね。明治時代の人物が好きで、松旭齋天勝さんに非常に惹かれてまして、昔、本を買った事があるし、雑誌の特集で日本奇術協会の奇術史も興味深く、古本屋まで探しに行った事もありましたよ。一昨年は、市ヶ谷での奇術関係のポスター展も見に行きました。結構、マニアの方々も来ていて、ポスター集めている人もいらっしやるんですよ。

ルーフ..そうでしたか。最近、

実際にマジックショーをご覧になられた事はありますか?

安 田..昔はよく寄席へマジックを見に行きましたけど、最近ではテレビばかりですね。とにかくエンターテイメントが好きなんです。

ルーフ..最近の格闘技もエンターテイメント性が出て来た様に思いますが、PRIDE(総合格闘技大会のエスプリ)が消滅してしまった今、これからの総合格闘技をどう思われますか?

安 田..総合格闘技は、これから狭くなって行くんじゃないかな。バラエティーに富んだ団体が出て選手のパイが全然変わらなから。やはりハングリ―精神を持った若い優秀な選手が出て来ないとね。試合だけじゃなく、もっとエンターテイメント性を出す事が大切ですよ。例えば、奇術をリング上で演出させたり、僕はそんな時代がもう来るんじゃないかなと思う。イチローがあれだけメジャーになり、アメリカで受けているのは、彼にエンターテイメント性があるからでね! 体の後ろで球をキャッチするなんて、あれはエンターテイメントですよ。人を驚かせたり、冒険出来る人間が居れば、世の中明るくなるんじゃないかとね!

ルーフ..以前、K-1でもオー



プニングセレモニーで、マジシヤンのセロさんがマジックを演じた事がありましたか。

安 田..あれは駄目ですね!

何故かと言うと、K-1の試合とセロのマジックをセパレートでやったからね。例えば、ルーフさんが奇術的な部分を選手やリングアナなどに教えて入場面で活かすとか、色々な形が考えられるんじゃないかな? 僕は奇術的な本筋はよく分からないけど、奇術的要素はエンターテイメントという点で、どんなジャンルでも成り立って行くと思う。

ルーフ..プロレスの毒霧なんて、まさにマジックですよ!

安 田..マジックですよ!

ルーフ..毒霧の見せ方は、マジシヤンが教えたらしく、武藤選手がテレビで語っていた事がありません。

安 田..そう、アメリカのマジシヤンですよ。そういうエンターテイメント性に気付いているプロレスラーは他に、グレート・カブキさんもそうですよ。ルーフ..そうですね! エンターテイメントとしてのプロレスに期待するものは何ですか?

安 田..ルールというものが世の中、あるじゃないですか。「ルールを守り、常識的な枠の中で仕事をすればいい」と思う選手が多いんですよ。叱られないか

ら、居心地がいいんですね。ルールという、凄く窮屈な中で生きています。ルールの中にあると新しいことが出来ない。だから夢がなくなってしまう。ルールの枠の中から飛び出た人間が居ると... 例えばアントニオ猪木なんかルール無視ですよ! 長州力もルール無視して藤波と喧嘩したりして、あそこまでスター

になったんです。どの世界でもルールという枠から飛び出して突き抜けないと面白くないと思うんですよ。そんな人を見んなが持ち望んでいますよね。政治家も「政治という常識」の枠内でやっている人が多いでしょう。本当に国や国民のために尽くす、突き抜けた政治家だな! という人が今は居ない。不正が当たり前という「政治業界」の常識の枠から飛び出していく政治家を僕は望んでいるんじゃないかな? たとえば、いまの時代だ

ったら純粹に正義のために不正を糺し、国民のために尽くす人ですよ。そんな政治家いないからね(笑)。プロレスが面白いのは、それが生々しい社会の縮図だし、それがさらに面白くさせるためにエスカレートさせた社会だから。くだらない常識的なものは無視して何でも有りなんだよ! という部分がある。例えば、秋山成勲や亀田親子なんて世間ではただのヒーローになって

いるけど、プロレスの世界に来れば大ヒーローで面白く、その人間の特徴を世の中に活かせる。猪木が現役だったら、うまく引き込んでいけるだろうけど。そういう事を格闘技界がやらないのは、やっぱり世間的常識の中に居るんじゃないかな!? 相撲業界は朝青龍を大ヒーローにしてうまく活かしたけど。

ルーフ..私も猪木さんには多くの活力、夢をもらいました。残念なのは今、第二のアントニオ猪木が居ない! という事ですね。安 田..猪木はブラジルで苦労して、力道山にシゴかれて、力道山を超えてやるう! って努力したんです! 当時の選手達に聞いても、一番強かったのはアントニオ猪木だったんじゃないかとと言われる位、本当に強かったんですよ。ライバルの馬場さんに「俺と対戦してくれ」と挑発し、それによって馬場よりも猪木のほうが強いという社会的認知を得てしまった訳です。モ

ハメド・アリ戦も実現したし、あれって当時の日本のスポーツ界では非常識なんですよ! 当時の有名なプロボクシングの世界王者と格闘技世界一決定戦なんて、できるわけがないと世界中が決めていましたから。ルーフ..世紀の凡戦とか言われましたね。

安 田..真剣勝負だったから、あんな凡戦になったんですよ。本来、アリ戦はエキシビジョンで呼んだけど、真剣勝負やらせちゃった(笑)。これも常識的ルールの枠から飛び出した面白いケースですよ。

ルーフ..総合格闘技の試合でも、選手同士の技の攻防で、猪木・アリ状態といたりしていますし、あの一戦が今の総合格闘技を生む切っ掛けにもなりましたからね。

安 田..アリキックなんて、あの一戦で作った訳でしょ! 常識にとらわれずに何かに挑戦すれば、そこからまた新しい何かが生まれるんですよ。

ルーフ..プロレスは本来、人間が持っている戦う本能をエンターテイメントとし、マジックは不思議を追求したいという本能を刺激するエンターテイメントとはいえないでしょうか?

安 田..そうですね。だからマジックは新しいものをどんどん出していつてもらいたいですね! マジックって娯楽としては最高に楽しめるんですよ。皆が「えーっ? 何で?!」という次元になるじゃないですか! でも、それでマジシヤンは終っちゃ駄目。その一歩も二歩も先にいかないと。プロレスもそうなんです。ファンと同じレベルになったら駄目なんです。ファンの三段階

位、上に立って。ファンに媚びるんじゃないかって、逆に突き放してわが道を貫いていく。そうやってくるとプロレスラーに憧れるファンが増えてくると思うんですよ! それでエンターテイメントとして通用することだと思えますね。これは大変だと思うけど、それをやった所からの凄いやマジックは発展して行くと思うし、又永続して行くと思えますね。猪木の発想も使えるんじゃないかな? 例えば、どんなマジシヤンでも同業の●●にジエラシーなんか持っているんだらうし、●●がそこまで有名になったのが分かっている訳だから、それを逆手に取ってやれば良い訳でしょう! それが猪木のやる逆転の発想なんです。ルーフ..確かに、プロレスを知れば知る程、猪木の発想はどんなジャンルでも活かされますね!

安 田..僕らはね。プロレス的発想を持つと、もっと世の中面白くなると思う。有名になった人って、どこか突き抜けてるし、常識破ってる人です(笑)。マジシヤンも観客の三段階上から見下ろし、いつも富士山の頂点に居ないとね! 僕はただ言ってるだけです(笑)。頑張ってください!

ルーフ..分かりました。今日は貴重なお時間、誠に有難うございました。

安 田..僕らはね。プロレス的発想を持つと、もっと世の中面白くなると思う。有名になった人って、どこか突き抜けてるし、常識破ってる人です(笑)。マジシヤンも観客の三段階上から見下ろし、いつも富士山の頂点に居ないとね! 僕はただ言ってるだけです(笑)。頑張ってください!